photopos 86

2020.7.3～ 2020.7.27

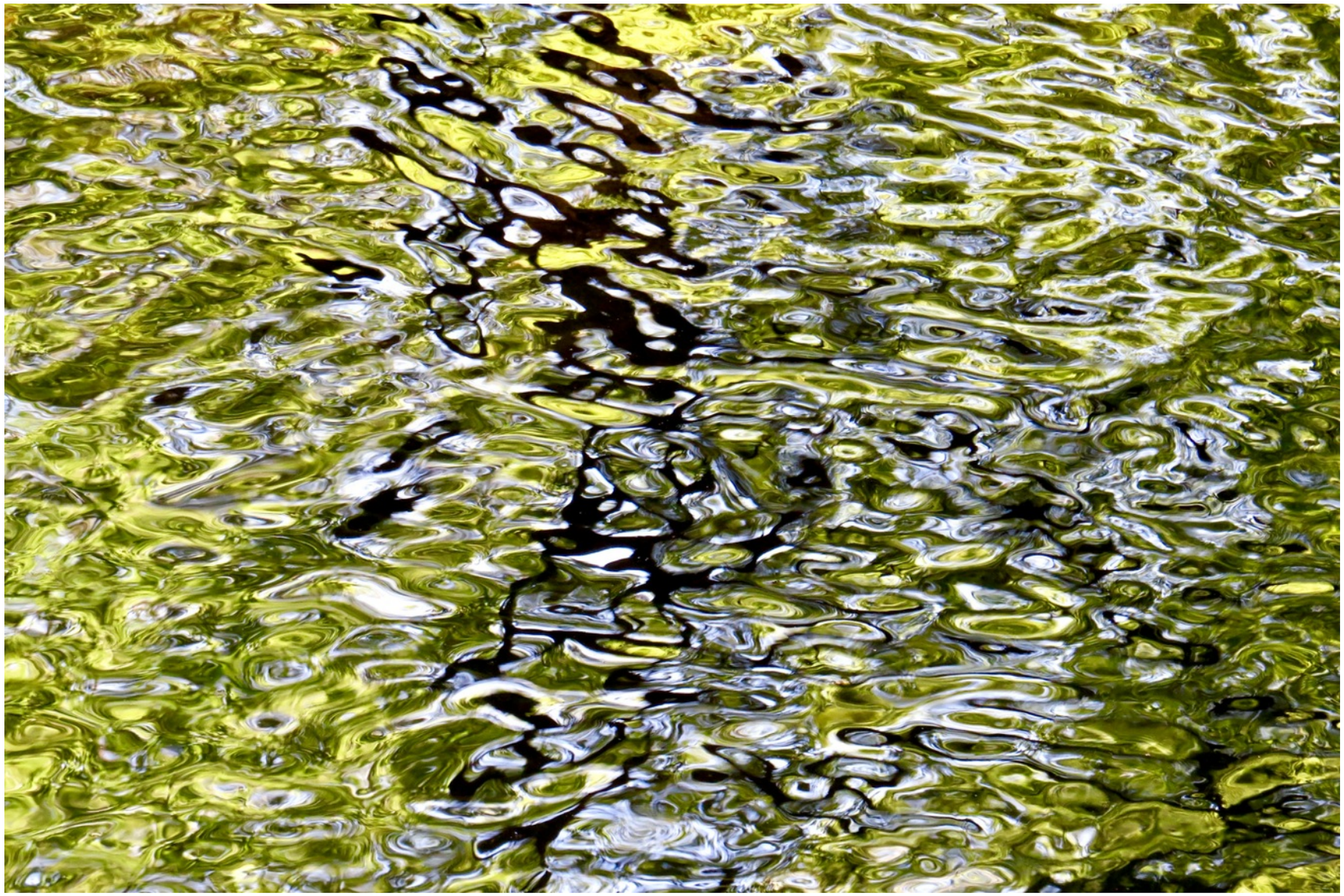
【神秘学ポエジー～風遊戯 第 172集】

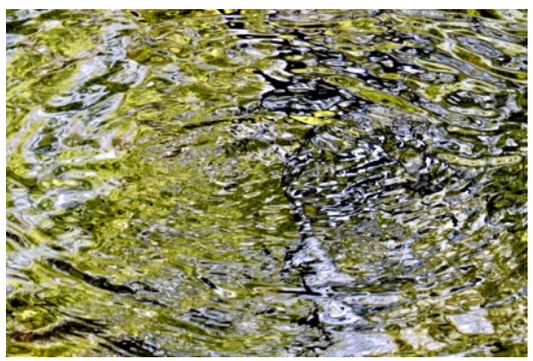
photo ヴァージョン

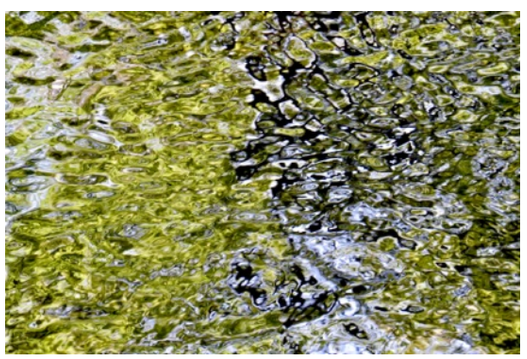
Photopos2126-2150

神秘学遊戯団

☆photopos-2126　　2020.7.3







※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

アナムネーシスよ

忘れられたすべてを
思い出すことが
学ぶことだとしても

思い出されるものもまた
かつて思い出されたものかもしれず
そうして幾度も遡っていくことが
学ぶことであるのならば

アナムネーシスよ

生きることは
学ぶことになるのだろうか

生きることから
学ぼうとするならば
いまをこそ
そして未来をも
思い出すことを
学ばなければならないだろう

アナムネーシスよ

すべてを忘れるということは
すべてがいちど
シャッフルされるということだ

忘れられたすべては
時空を超えて
無数の考えの細胞から
いまここで
あらたしい形を
かたちづくってゆかなければならない

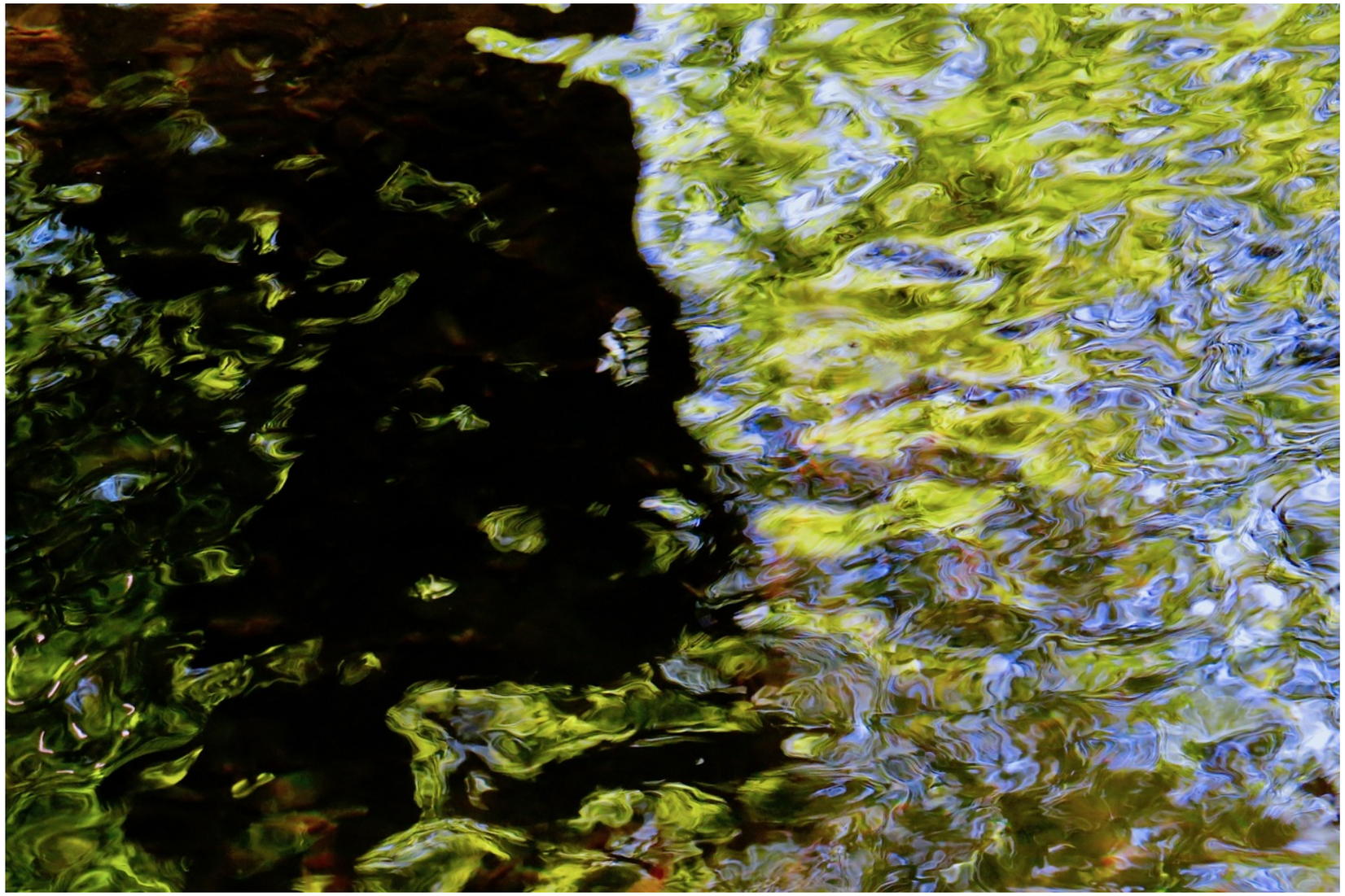
アナムネーシスよ

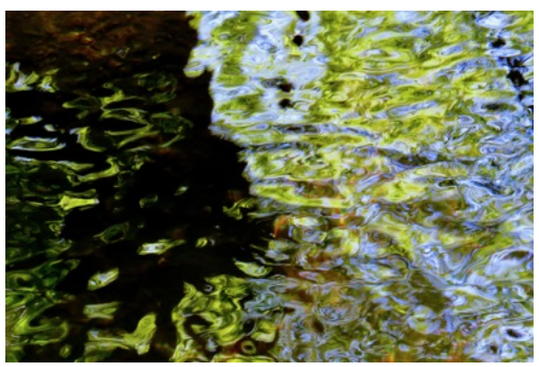
そして
忘れられたわたしと
忘れられたあなたがいる

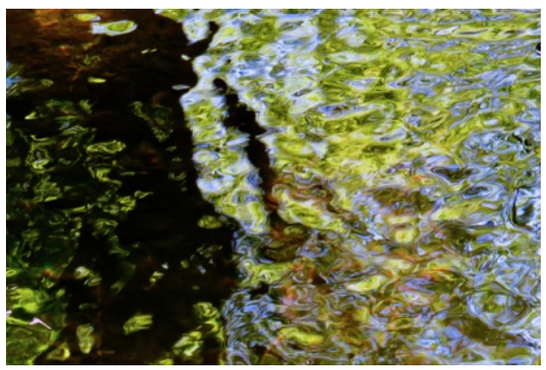
ならばこそ
わたしとあなたの
無限の邂逅が
無数のいまここで
新たに繰り返されることになるのだ

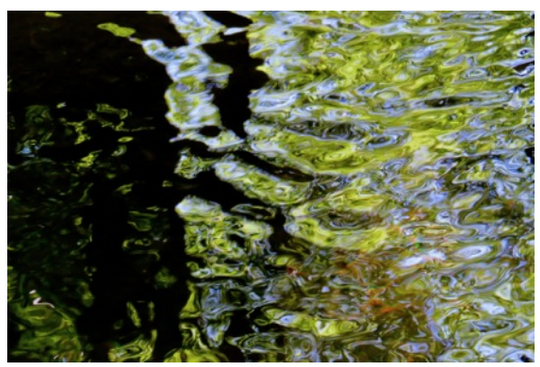
☆アナムネーシス：想起（プラトン）

☆photopos-2127　　2020.7.4









※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

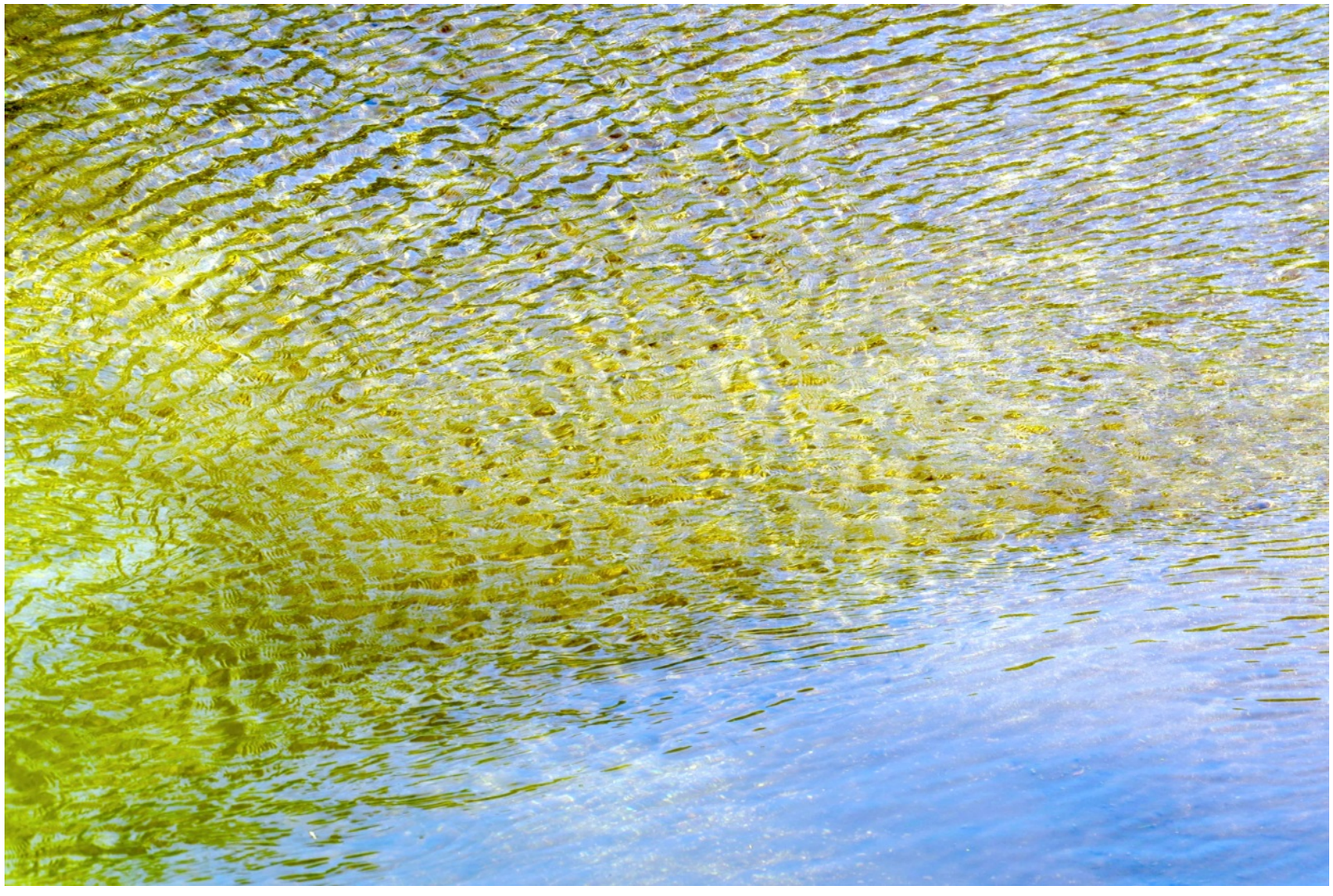
闇のなかでしか
見えない光があるから
ひとは生まれてくるのだろう
闇を超えるためにこそ

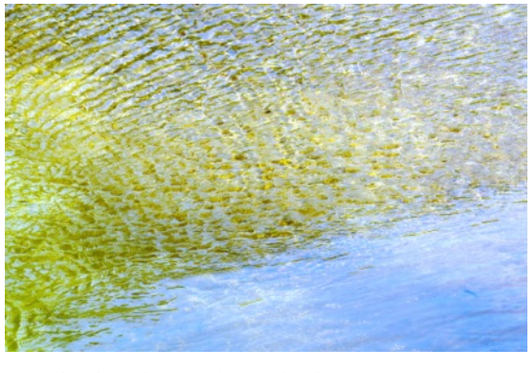
夢のなかでしか
見えない姿があるから
ひとは眠りを求めるのだろう
夢を超えるためにこそ

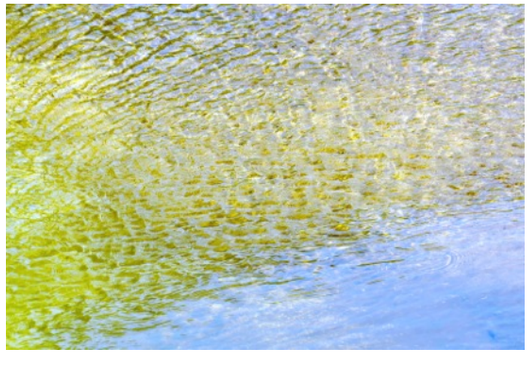
心のなかでしか
見えない思いがあるから
ひとは沈黙するのだろう
心を超えるためにこそ

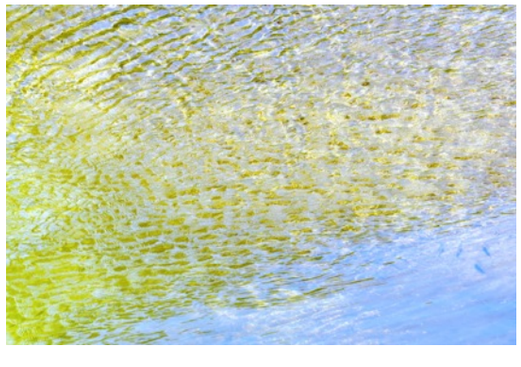
時のなかでしか
見えない道があるから
ひとは歩いてゆくのだろう
時を超えるためにこそ

☆photopos-2128　　2020.7.5









※愛媛県松山市・立岩川にて

水が
歌えないときは
水の外で
光になる

光が
歌えないときは
光の外で
風になる

風が
歌えないときは
風の外で
花になる

花が
歌えないときは
花の外で
言葉になる

言葉が
歌えないときは
言葉の外で
沈黙になる

沈黙が
歌えないときは
沈黙の外で
世界になる

世界が
歌えないときは
世界の外で
私になる

私が
歌えないときは
私の外で
もうひとりの私になる

☆photopos-2129　　2020.7.6

※愛媛県松山市・高縄山にて

ひそかな
境に
育つもの

かりそめ
姿を
標すもの

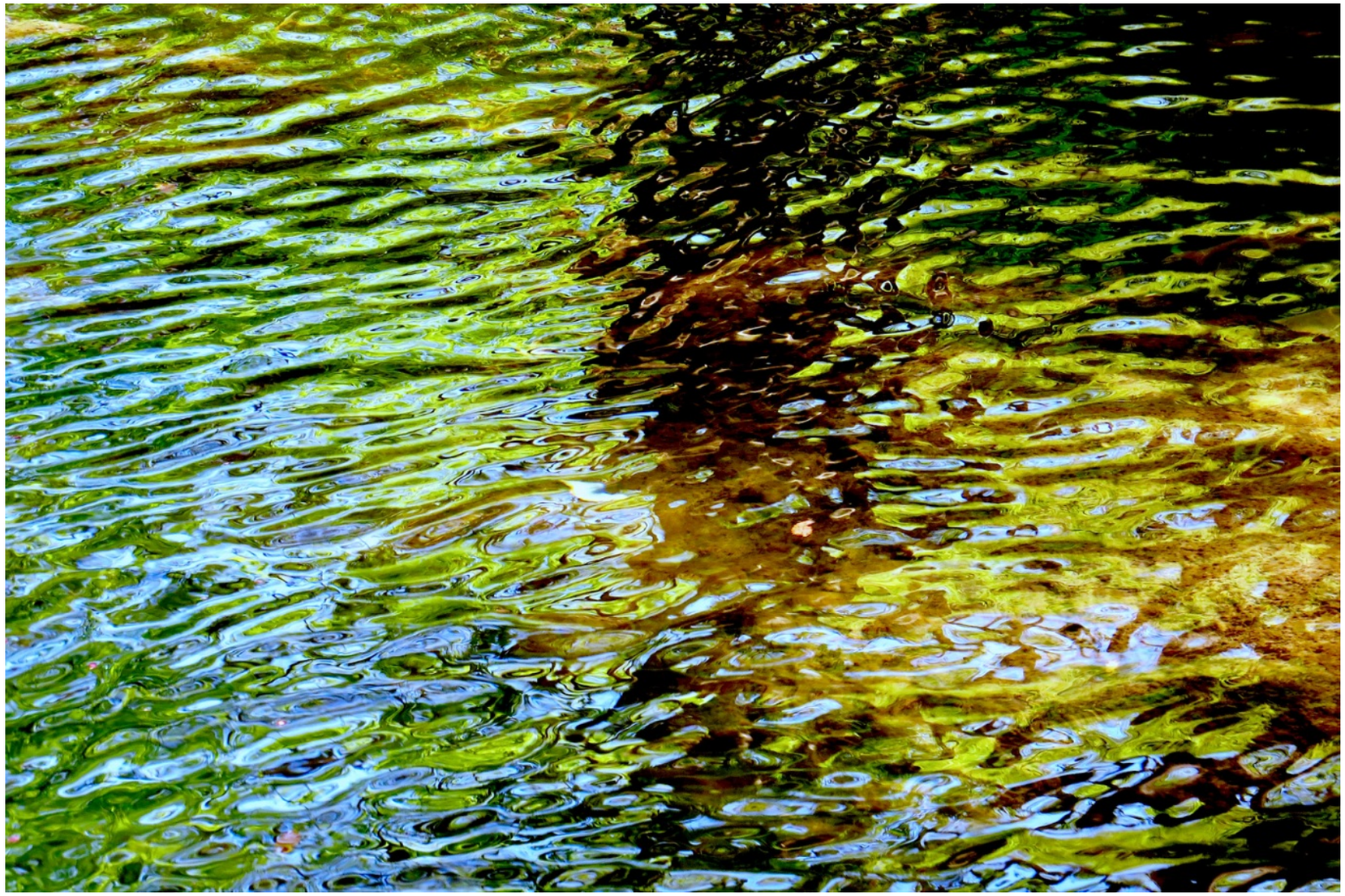
つかのま
風と
遊ぶもの

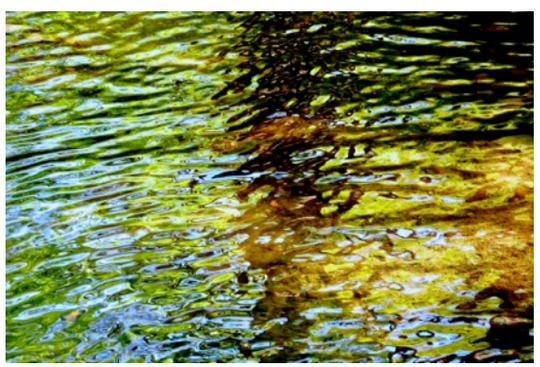
ひととき
水に
映るもの

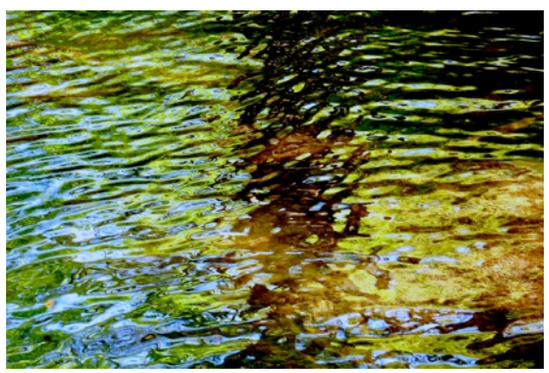
あわいに
夢を
運ぶもの

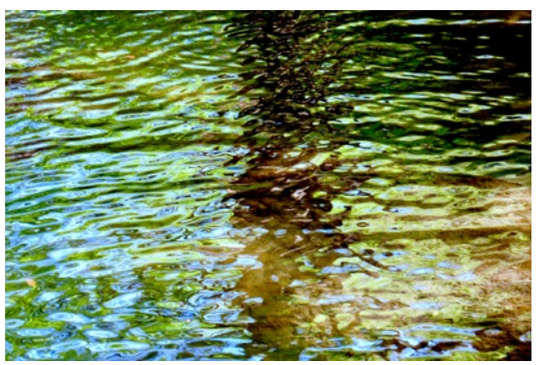
うつつの
時へ
移るもの

☆photopos-2130　　2020.7.7









※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

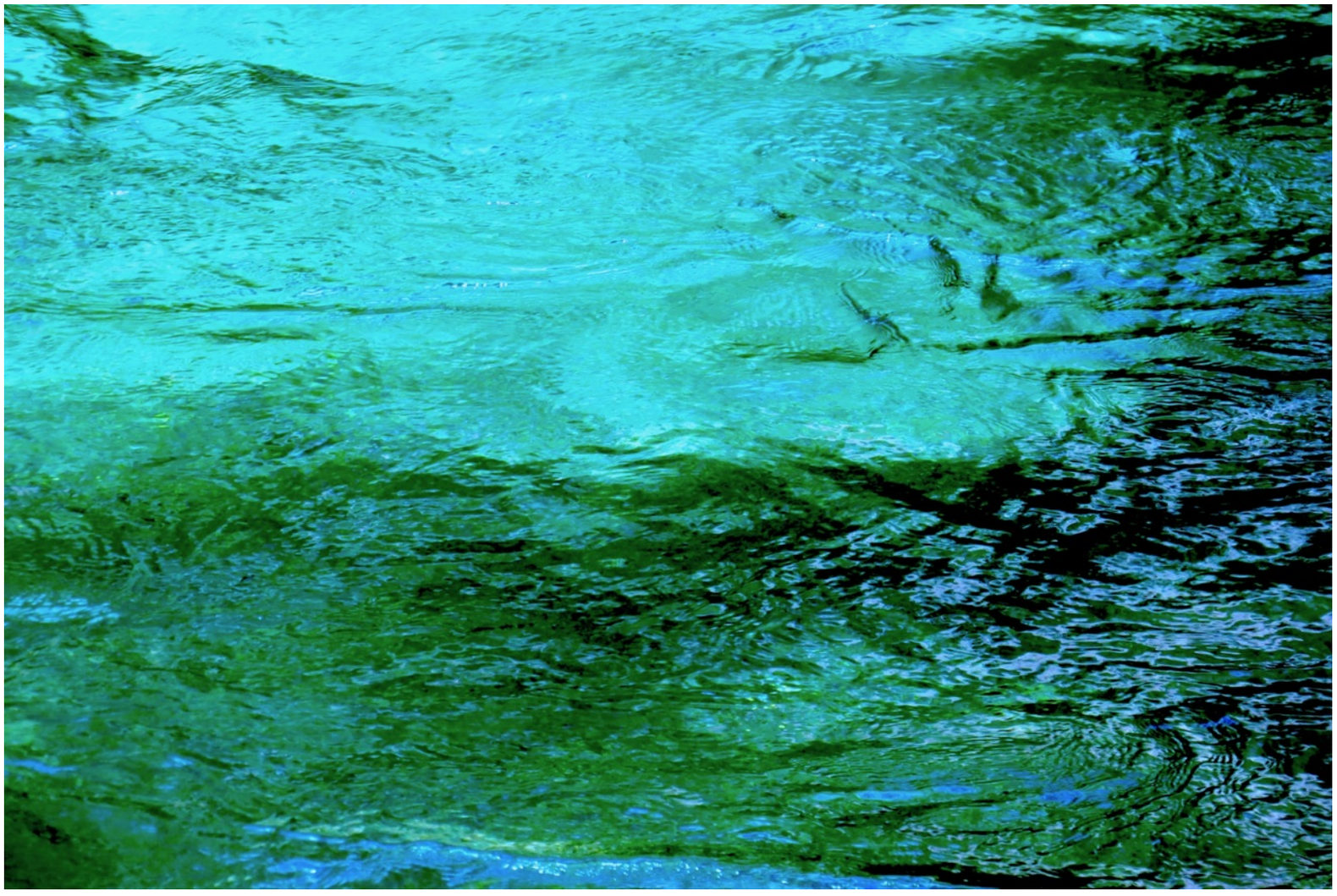
ひとつ
には
ひとつ
でない
無数が
ひろがっている

けれど
わたしは
その
ひとつを
選ぶのだ
わたしを
生きるために

考える
とき
考えない
無数が
そこにはある

けれど
わたしは
それを
考えることを
えらぶのだ
ちっぽけだけれど
わたしという
この世界をつくるために

☆photopos-2131　　2020.7.8



※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

わけられないものを
わけているうちに
わからないものがうまれ

なにがわからないかさえ
わからなくなり
わけられたものは
やがてわからないことをわすれ

かぞえられないものを
かぞえているうちに
かぞえられないものがうまれ

なにがかぞえられないかさえ
わからなくなり
かぞえられたものは
やがてかぞえられないことをわすれ

さわれないものを
さわっているうちに
さわれないものがうまれ

なにがさわれないかさえ
わからなくなり
さわられたものは
やがてさわれないことをわすれ

うたえないものを
うたっているうちに
うたえないものがうまれ

なにがうたえないかさえ
わからなくなり
うたわれたものは
やがてうたえないことをわすれ

☆photopos-2132　　2020.7.9

※愛媛県総合運動公園にて

毒を食らえと
言う者あり

生とは
それそのものが
毒を食らう過程
でなければならないと言うのだ

毒とは異相だ
ひとは異相に出会ってこそ
みずからを乗り越えられる

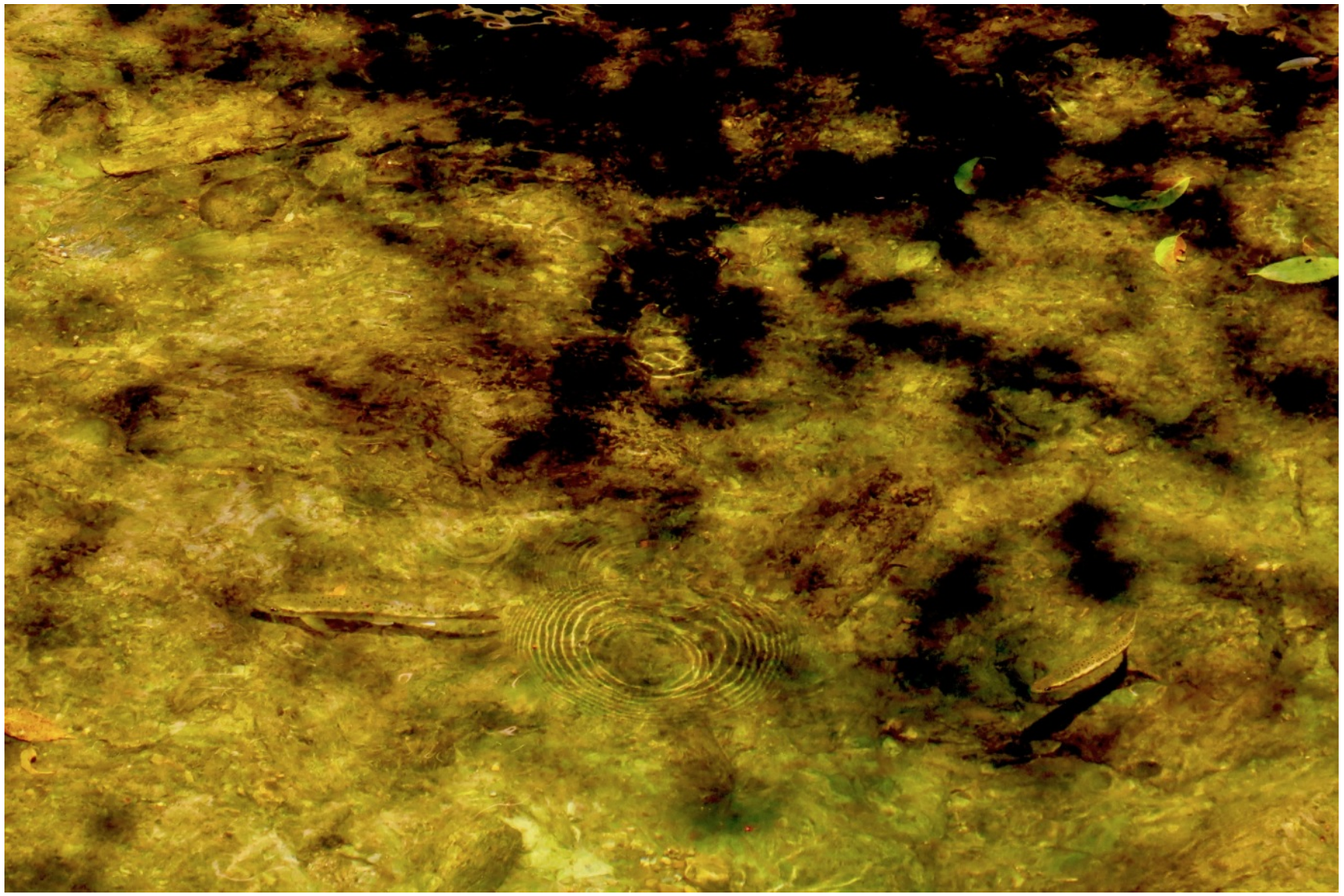
異相なきとき
みずからの内を
めぐるばかりに終始する
そこに他者は存在しないのだ

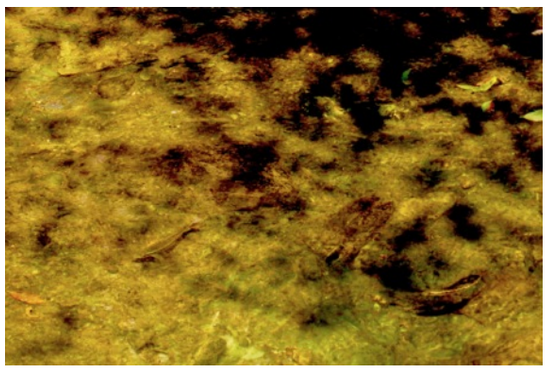
毒を食らうとは
生を賭して
他者としての異物をとりいれ
変容させることだ
それをあらたな生命力に変えるために

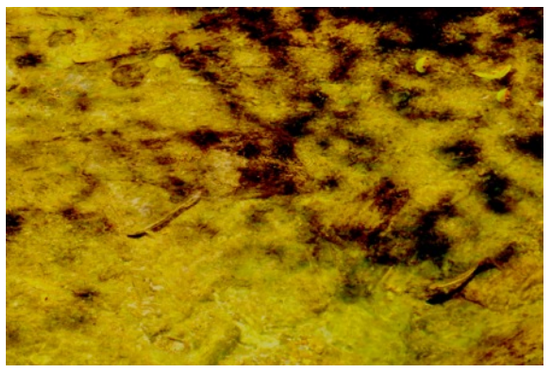
芸術や文学から
毒が失われるとき
それらの享受はただの
気散じと化してしまい
生命力が奪われることになる

それらは毒をもって
毒を制するものでなければならない
毒は悪だが
悪は変容させることができたとき
高次の善として姿を現すのだから

☆photopos-2133　　2020.7.10







※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

秘密は
いつも
生まれているのに

だれも
その秘密に
気づけずにいる

秘密を
見つけるために
わたしは
そっと
ひらくのだ
わたしの外への扉を

奇跡は
どこにでも
生まれているのに

だれも
それを
奇跡だと思えないでいる

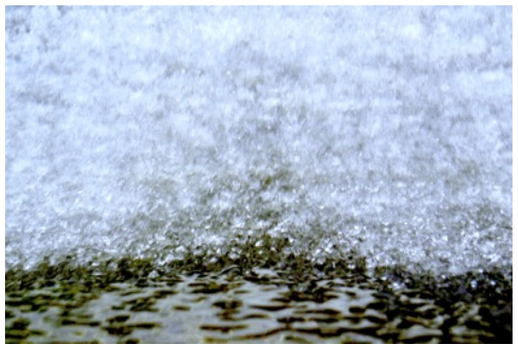
奇跡を
見つけるために
わたしは
ぐれんと
裏がえすのだ
わたしという世界の境を

歌は
いつでも
歌われているのに

だれも
その歌を
聴けないでいる

歌を
聴くために
わたしは
耳を閉じて
響きあうのだ
深みで生まれる祈りとともに

☆photopos-2134　　2020.7.11



※愛媛県総合運動公園にて

時代はなにを
見せようとしているのだろう

それが見えてくるのは
時代が終わり
それをふりかえったときなのだろうが

その時代のなかで
生きることでしか
決して得られないものがある

タイムマシンを使って
ずっと先の時代から
今を見てみたいとは
だれしも思うだろうが

その視線はすでに
そのときの今ではない

どんな暗闇にいても
どんな迷路にいても
私がたしかにいる今は
今だけの今なのだから

☆photopos-2135　　2020.7.12

※愛媛県松山市・高縄山にて

いっしょにいるよ
だから
ひとりでいる

ちがっているよ
でも
いっしょにいられる

友だちだよ
だから
ひとりのみんな

別のところを見ていても
どこかで
たしかにつながりながら

愛しているよ
だから
ひとりとひとり

むきあっているよ
いつでも
ずっと話しあって

☆photopos-2136　　2020.7.13

※愛媛県総合運動公園にて

森は
秘密に
満ちている

森にいるのはなんだろう
知らないものが現れて
知らない言葉で話してる

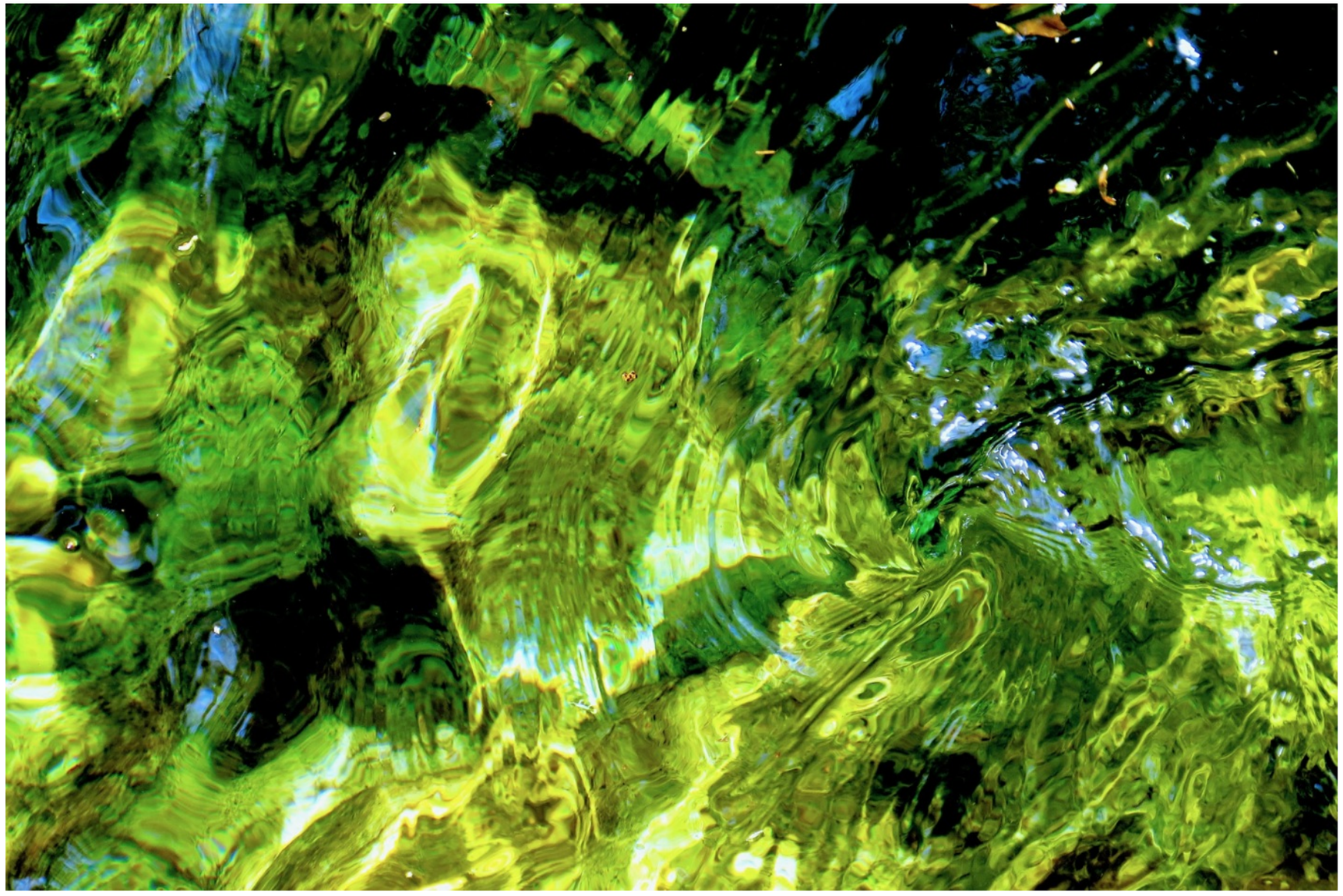
人は
秘密に
満ちている

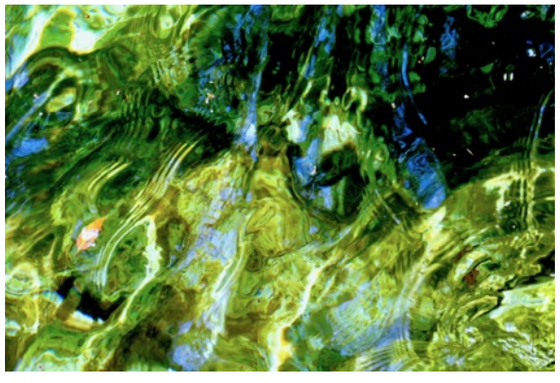
人はどこから来たのだろう
人はどこへ行くのだろう
私は森で考える

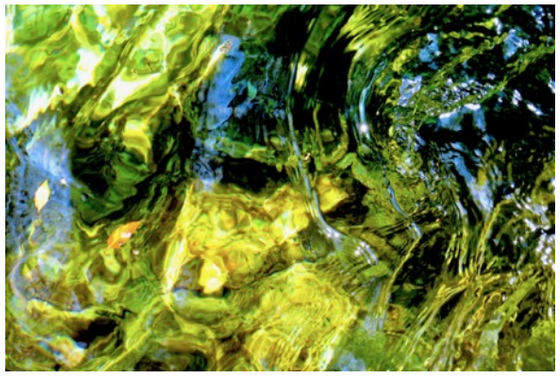
時は
秘密に
満ちている

時にはじめはあるのだろうか
時におわりはあるのだろうか
私の時はいまここだけなのに

☆photopos-2137　　2020.7.14







※愛媛県久万高原町・面河渓にて

ふれる
そのことでしか
見えない光がある

光は
やがて
姿を消すが

そのあとにも
決して消えない光を
灯し続けるために

ふれることは
ふれることをこえて
ゆかなければならない

ほんとうに
ふれる
そのときにだけ微笑む
そんな永遠があるから

☆photopos-2138　　2020.7.15

※愛媛県松山市大浦にて

ほんとうか
うそか
そのあいだで
じぶんがわからなくなったとき
笑いたくはならないか
言葉という世界の外に出ようとして

いいか
わるいか
そのあいだで
じぶんがわからなくなったとき
笑いたくはならないか
白黒という世界の外に出ようとして

これか
あれか
そのあいだで
じぶんがわからなくなったとき
笑いたくはならないか
二元という世界の外に出ようとして

悲しいのか
悲しくないのか
そのあいだで
じぶんがわからなくなったとき
笑いたくはならないか
こころという世界の外に出ようとして

☆photopos-2139　　2020.7.16

※愛媛県総合運動公園にて

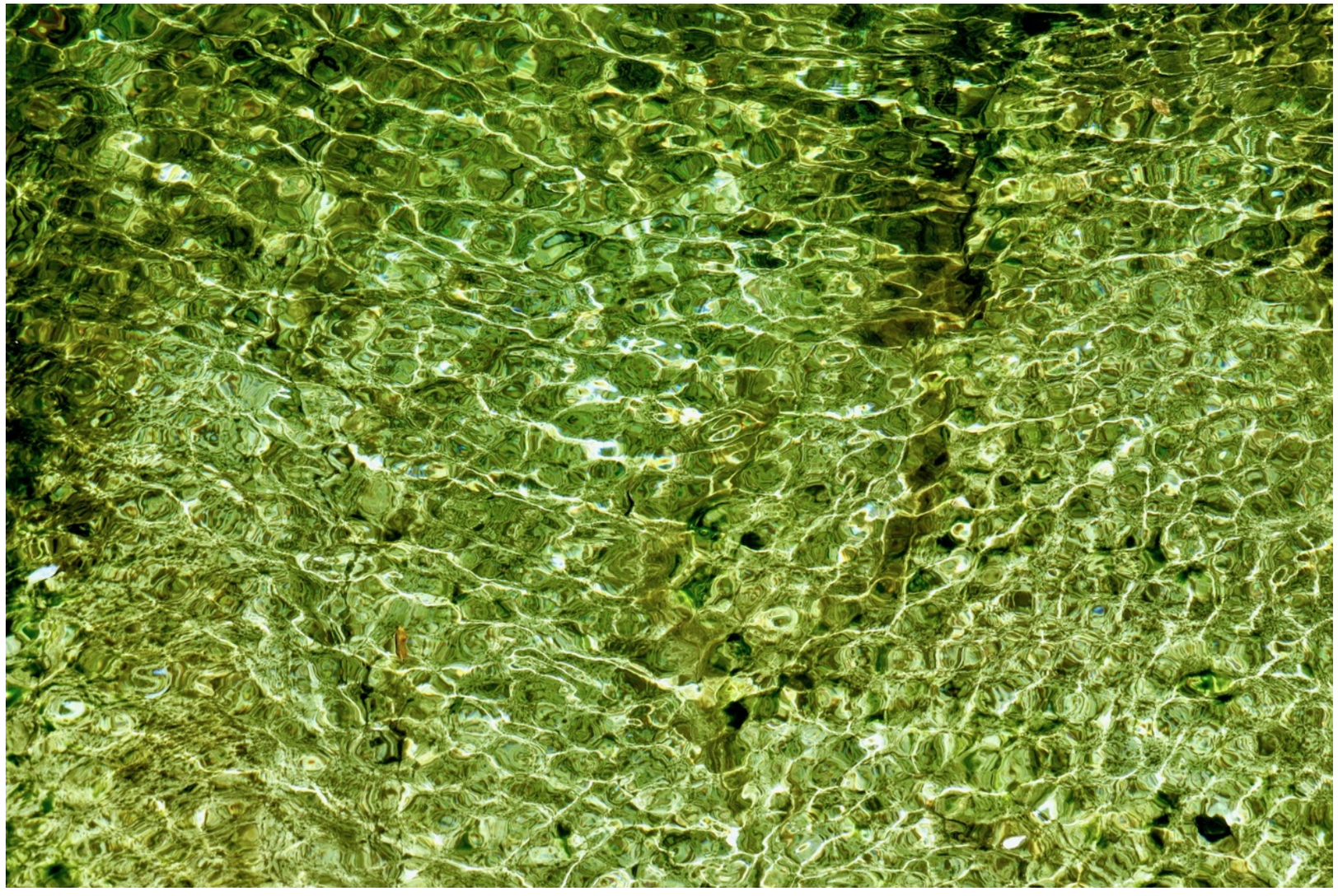
変わってゆくものを
姿を変えてゆくものに
喩えることはやさしい

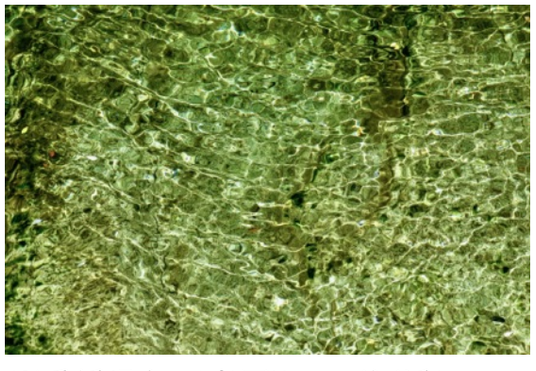
けれども
見えないでいる
変わらないものを
喩えることはむずかしい

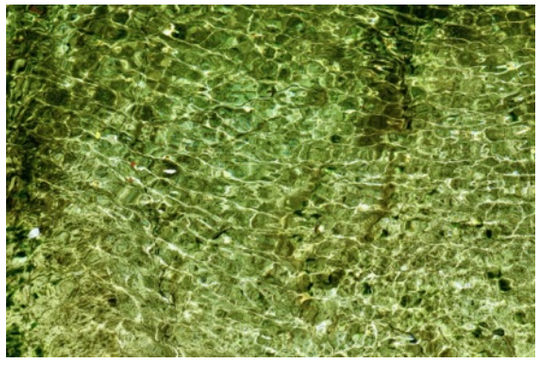
変わらないものは
変わってゆくもののなかでこそ
熟してゆくのだから

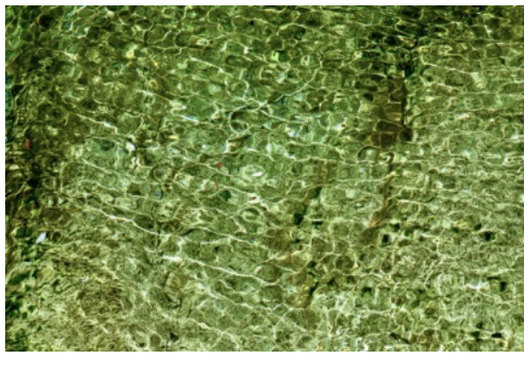
永遠という変わらないもの
それもまた
その姿を変えながら
時の花を咲かすことができるのだ

☆photopos-2140　　2020.7.17









※愛媛県久万高原町・面河渓にて

ひとと
つながっても
じぶんと
つながれないとき
わたしは
どこにもゆけない

ひとと
つながれば
つながるほど
じぶんをみうしなう

ひとと
はなしても
じぶんと
はなせないとき
わたしは
なにもきけない

ひとと
はなせば
はなすほど
じぶんのこえはわからなくなる

☆photopos-2141　　2020.7.18

※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

流れることは
流されることじゃないから
わたしはわたしでいる

わたしはわたしのかたちをつくり
円を描きながら輪を広げてゆき
わたしという流れさえ超えてゆく

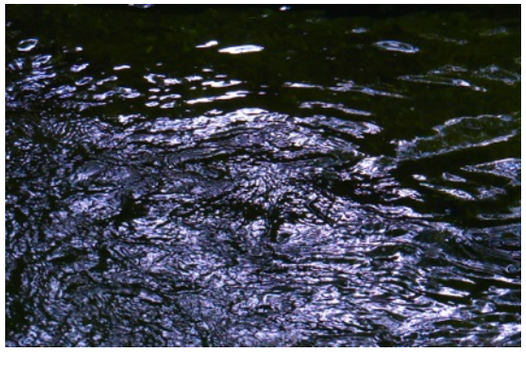
愛することは
融け合うことじゃないから
わたしはわたしでいる

わたしはわたしの円
あなたはあなたの円のままに
愛と愛は重なりゆき
わたしの円あなたの円さえ超えてゆく

死にゆくことは
消えてゆくことじゃないから
わたしはわたしでいる

わたしの魂は円を重ね
水の鏡に波紋を映しながら
わたしの姿を変容させてゆく

☆photopos-2142　　2020.7.19



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

光は
光のままでは
いられない

闇は
闇のままでは
いられない

それらは
世界の深みで織りなされ
育てられなければならない

そのために
世界は生まれたのだから
そして世界は変容してゆくのだから

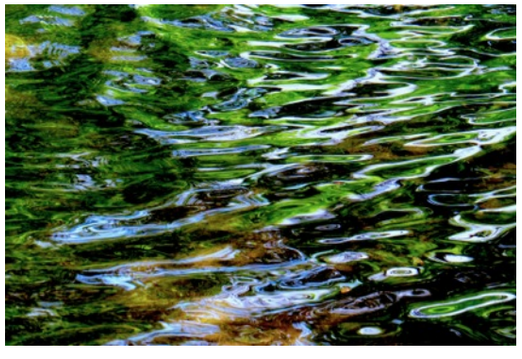
悲しみは
悲しみのままでは
いられない

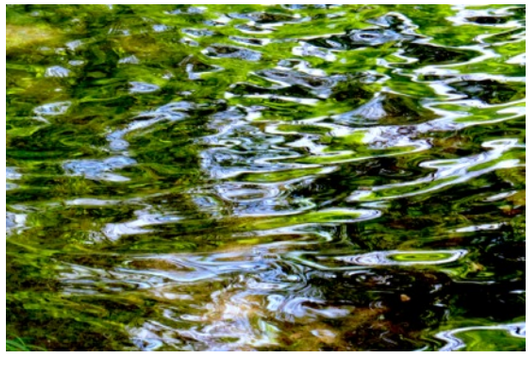
歓びは
歓びのままでは
いられない

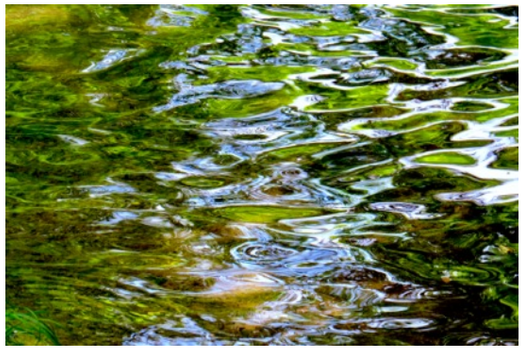
それらは
魂の深みで織りなされ
育てられなければならない

そのために
魂は生まれたのだから
そして魂は変容してゆくのだから

☆photopos-2143　　2020.7.20







※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

心の森には
鏡の怪物が棲む

怪物はじぶんなのに
気づかないでいると
怪物は襲ってくる

それが鬼ならば
じぶんのなかに鬼がいるのだ
その人喰い鬼がじぶんを喰いはじめる

学べるのに
教えてもらおうとするから
学べなくなるのも
その人喰い鬼だ

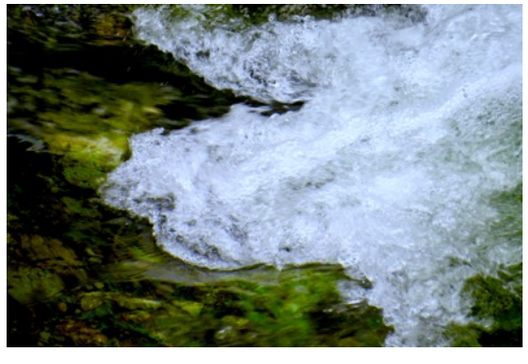
与えられているのに
奪おうとするから
奪われてしまうのも
その人喰い鬼だ

心の森には
鏡の怪物が棲む

怪物が怪物なのではない
怪物を怪物にしている
じぶんのなかの秘密を
開かなければならないのだが

ひとはほんとうは
その秘密を知っているのに
知りたくないだけなのかもしれない
こんな顔かいと
ふりむく顔を見たくないばかりに

☆photopos-2144　　2020.7.21



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

どうして
偶然は
訪れたのか

天から
訪れたのか
海の彼方から
訪れたのか
地の深みから
訪れたのか

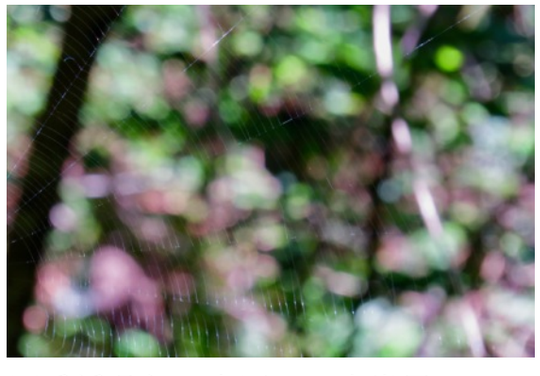
偶然という
まれびとは
それ相応に
もてなさねばならぬ

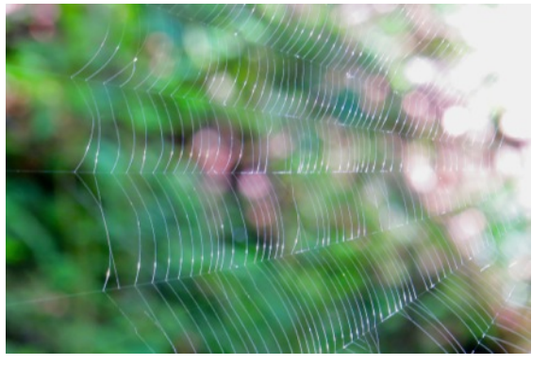
それを
シンクロニシティと
呼ぶこともあるだろうが
それはたしかに訪れたのだ

驚くのでも
否定するのでもなく
たしかに訪れたものには
たしかに応えねばならない

もとより
私がここにあるのも
偶然の訪れそのものなのだから

☆photopos-2145　　2020.7.22





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

好きの境で
ひとは立ち止まる

好きは
好きのままでは
どこにも行けない

好きの
向こう側には
なにがあるのだろう

好きは
好きの境を
超えられるだろうか

好きを超えて
はじめて出会える
光がある

嫌いの境で
ひとは立ち止まる

嫌いは
嫌いのままでは
どこにも行けない

嫌いの
向こう側には
なにがあるのだろう

嫌いは
嫌いの境を
超えられるだろうか

嫌いを超えて
はじめて出会える
光がある

☆photopos-2146　　2020.7.23

※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

わからないものを
わかったもので
わかろうとしないとき
わからないものと
ともにあることができる

ともにあることで
ひらかれるものがある

ちがうものを
おなじものさしで
はかろうとしないとき
ちがうものと
ともにあることができる

ともにあることで
ひらかれるばしょがある

あなたを
わたしのなかで
みようとしないとき
あなたと
ともにあることができる

ともにあることで
ひらかれるあいだがある

☆photopos-2147　　2020.7.24

※愛媛県伊予市森林公園にて

生まれ
生まれ
生まれて

育ち
育ち
育って

変わり
変わり
変わって

死に
死に
死んでゆく

生きるという不思議
成長するという不思議
死んでゆくという不思議

その不思議のなかに
成熟するという秘密がある

なぜ世界はあるのか
なぜ私はあるのか

それは静かな成熟の歩みとともに
秘密の開示されてゆく問いなのだ

☆photopos-2148　　2020.7.25

※愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

時は不思議だ
秘密に満ちている

時は
戻せるのだろうか

その問いはいつも
取り戻したい時へと
じぶんをつれてゆく
そしてそこから
今という時が見つめられる

心は不思議だ
秘密に満ちている

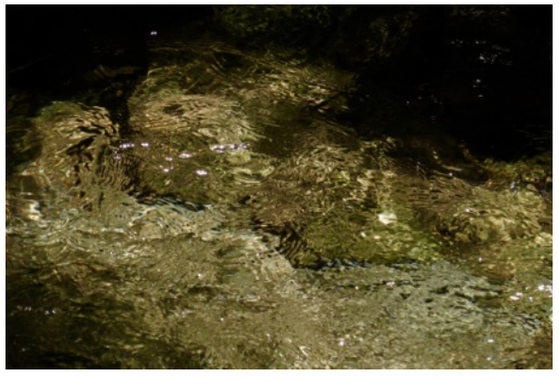
じぶんは
これからどうなるのか

その心はいつも
その時へとじぶんをつれてゆく
そしてそこから
今のじぶんの心が見つめられる

心という花は
時という
永遠の庭に咲いている

けれど
そのことを忘れてしまい
心は旅に出るのだ
やがてみずからを
思い出すそのときまで

☆photopos-2149　　2020.7.26



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

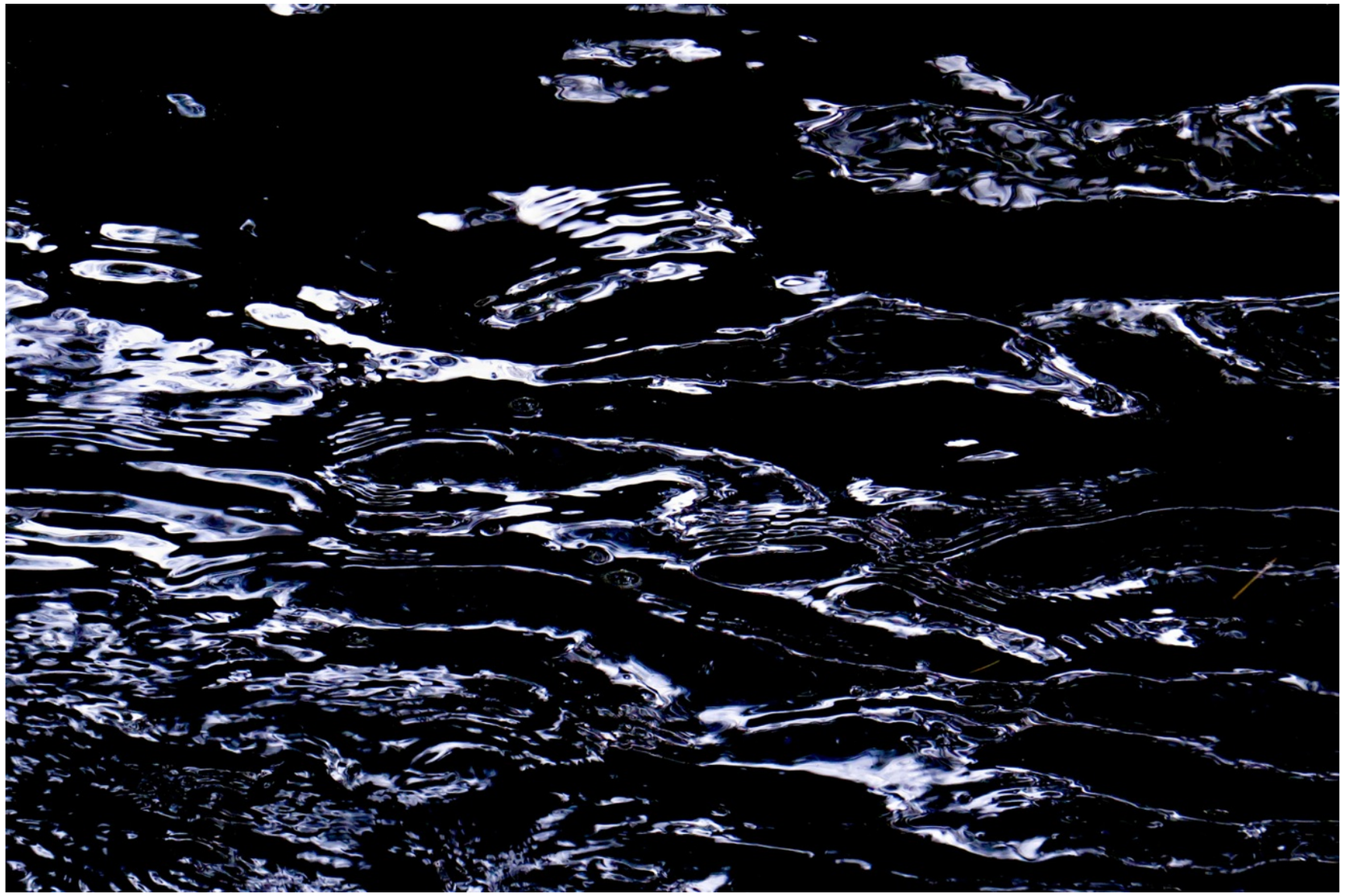
闇のなかでしか
見えない光がある
光のなかでは
星が見えないように

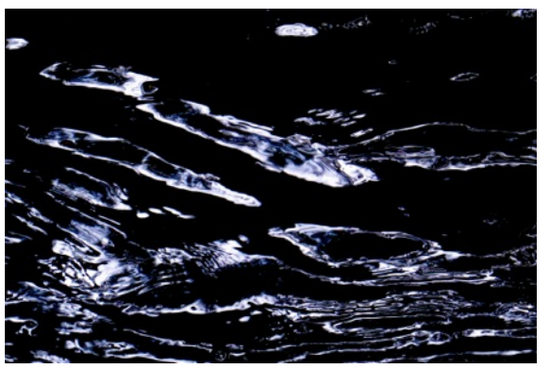
弱さのなかでしか
見つけられない力がある
強さのなかでは
じぶんが見えなくなるように

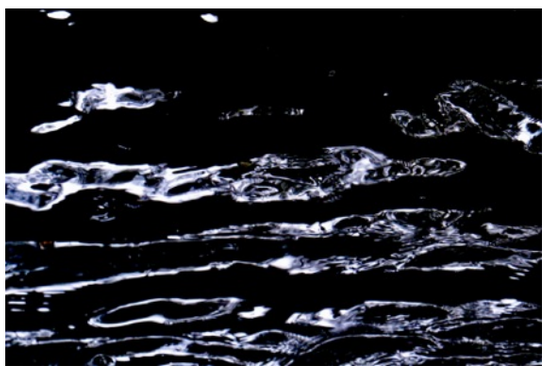
愚かさのなかでしか
詠えないこころがある
賢さのなかでは
正しさばかりが語りすぎるように

沈黙のなかでしか
聞こえない声がある
言葉のなかでは
言葉を超えられないように

☆photopos-2150　2020.7.27







※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

私は
私ではなくなり
世界は
世界ではなくなり

無の場所へと
降りてゆく

無の場所では
すべてが
源の光を宿し
融通無碍に
明滅しあっている

その場所でしか
私は
そして世界は
新たに
生まれることはできない

やがて
私は
私へと帰還するだろう
世界は
世界へと帰還するだろう

私でない私として
世界でない世界として
無のはたらきとともに